



三井高好（宗感）と「宗感觉帳」

口絵 三井高好（宗感）と「宗感覺帳」

三井高好は、三井家初代・高利の六男。寛文二年（一六六二）伊勢松坂に生まれ、元禄一七年（一七〇四）京都で没した。法名を宗感という。高好は、父・高利を助け三井越後屋の創業を担った兄弟たちの一人で、特に江戸店での呉服物の店前売りにおいて、手代たちの追隨を許さないすぐれた手腕を見せたことが伝えられている。

上段は、小石川三井家（高好の名跡を相続した三井高春を初代とする家）に伝来した高好の肖像画で、三井文庫が写真を保管している。高好の相貌は父・高利によく似ており、江戸店で示した商才がうかがわせるものがある。

下段は、高好が残したメモとされる「宗感覺帳」（三井文庫寄託史料 北六一〇）の写真である。右側が表紙側から、左側が裏表紙側から撮影したもの。この史料は、駿河町に移転した直後の越後屋江戸本店の状況をはじめとする、一七世紀末、創業期の三井越後屋の有り様を示す貴重なものである。詳細については、本号掲載の史料紹介「宗感覺帳」——創業期三井越後屋の動向——を参照されたい。